

# 技術者育成と連携の制度設計を

会長 佐藤 匡良



昨今、下水インフラの老朽化に伴う陥没事故と、ライフラインの寸断が各地で多発しており、全国的に特別重点箇所の点検・調査が実施されています。全国の総延長が約50万kmといわれる下水道管路の点検・調査においては限界があり、優先的に老朽化ハザードや社会的影響が大きい重要箇所の点検・調査と更新計画が進められていく一方で、「少子高齢化」に伴う、現場技術者や作業員の労働人口の減少、硫化水素や流水といった現場環境下での安全対策など、民間事業者だけでは対処が困難な課題も抱えています。当協会では、LCC低減型「ジックボード工法」を主に、マンホールや管路の更生技術の開発と専門技術者の育成や安全対策には力を入れています。さらに「官」・「民」・「学」の連携推進、自治体での技術者育成と広域での技術者連携といった制度設計を期待しています。